

わが家

2023
11月
vol.14

特定非営利活動法人りゅうおう

- グループホーム希望の家・綾戸
竜王町綾戸 1041 ☎57-0093
- デイハウス須恵の郷
竜王町須恵 48-3 ☎58-3513
- グループホームわかすぎの丘・七里
竜王町七里 545-1 ☎58-3428
- ふきのとうカフェ(竜王町委託事業)
竜王町公民館で月2回開催

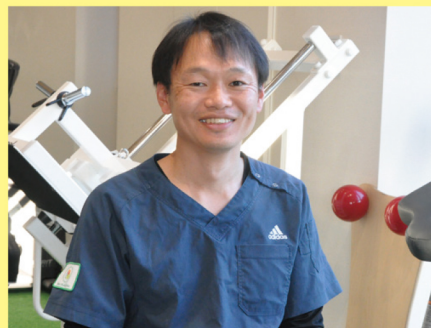
令和5年11月発行

私たちとともに、入居者を支える方々から

寄り添い

医療法人滋賀家庭医療学センター
弓削メディカルクリニック
理学療法士 / 言語聴覚士

田口 裕



6年程前の事です。わかすぎの丘に入所中の女性が脳梗塞を発症して入院されました。後遺症のリハビリが必要でしたが、認知症のために入院が継続できず、程なくしてホームに戻ってこられました。職員の方から相談を受けて私は施設に伺いました。重度の麻痺で介助がないと歩行できない状態でしたが、それよりも難しい問題は病識がないということでした。一人で歩くと転倒することが認識出来ず、今まで通りに立ち上がって歩こうとされます。一步踏み出したら転倒してしまいます。もともと買い物や散歩が好きだったので、入所されてからも施設の中を日に何度も歩いておられたようです。

私から職員の方に次のように伝えました。発症後間もないのでリハビリによる回復は期待できるが、練習しても一人で歩けるようにはおそらならない。病識がないので唐突に歩き始められることは避けられない。職員の皆さんは、一人で歩けるようにならなくても今よりも回復するのなら、そして何より入所前からされてきた“この方の生活”を続けてもらうために、可能な限り女性の散歩を介助すると決められました。週1、2回の私のリハビリ以外に職員とご家族が、唐突に歩き始められるのを介助して、毎日何度も何度も廊下を1周2周と共に歩かれたのです。それは本当に大変な労力を伴うことで、その様子には強く心を打たれました。

数ヶ月後、その方は肺炎でお亡くなりになりました。ホームの一角に思い出の写真や作品が飾られ、皆さんがそこに手を合やす姿を見ました。その方のこれまでの人生がグループホームの中で繋がっていく。どんな状況になっても、その方の希望が繋がっていく。まわりの人の想いが繋がっていく。その方の記憶が繋がっていく。このエピソードを思い出すたびに、ひとりの人に寄り添うことについて考えます。

地域とわかすぎの丘・七里の10年

七里地区民生委員児童委員 松村 譲



開設10周年を迎えられた「わかすぎの丘・七里」の入居者様、職員の皆様おめでとうございます。私は、開設当初より施設の運営推進委員として、2ヶ月に1度の会議に出席させていただいています。会議の為訪問を重ねるうちに、入居されている皆さんが笑顔で迎えてくださるようになり親近感がわいてきました。会合では施設の近況や出来事などの報告を聞き、入居者さんの生活環境等の向上について意見交換を重ねてきました。

施設と住民のつながりを深める為に地元住民を招待して記念式典等を催されたり、時には地域の高齢の方や子ども達を招待していただいたり積極的に交流を図ってこられました。また自治会も納涼祭・文化祭等に参加していただく機会を設けて、交流を深めてまいりました。このような交流の積み重ねによって入居者さんと地元住民の良い関係が築かれています。入居者さんが散歩の途中で、住民の皆さんと笑顔で挨拶を交わす光景も多く目にしました。

ところがこの数年は、コロナ感染症が蔓延し、入居者さんの外出や住民の訪問に規制がかかり、交流ができなくなりました。最近になって、コロナの規制も緩和されて、施設では10周年の記念祝賀会が開催され、住民も招待していただきました。自治会では数年ぶりに区民納涼祭が催され、数名の入居者さんが参加され、住民の皆さんとともに楽しんでおられました。まだまだ感染を無視した交流は難しいですが、コロナ禍以前の自由な交流が取り戻せることを願っています。

人が育ち、質の高いケアが育つ

滋賀県認知症介護指導者
希望の家・綾戸スーパーバイザー 榎本 千代



『希望の家』の坂口直司理事長は、職員の人材育成に関心をおもちで、内部からの職員教育は勿論のこと外部から客観的な視点を取り入れることで『希望の家』の組織力、介護力アップを図ろうと考えておられます。私は、このような観点からご依頼をいただき、職員会議、リーダー育成研修などで月に2回ほど訪問させていただいている講師の榎本千代です。私は、日頃彦根のグループホームでケアマネジャーとして勤務し、また滋賀県から委託をいただき認知症関連の講師を務めております。

訪問するたびに感じることは、『希望の家』の職員の方々は、人を迎え入れる心の準備ができていて、ほのぼのとした雰囲気でもの方も優しく挨拶を交わしてくださいます。ご入居者においても同じ雰囲気をおもちだと感じております。入居者、職員ともに自分のそのまま、リラックスして暮らせる家が『希望の家』ではないでしょうか。窓からは、明るい光が差し込み、木のぬくもりを感じさせる落ち着いた佇まいの中に皆様の暮らしがあります。『希望の家』グループホームから目立ってアピールはしていませんが、地域住民のみなさまの傍で福祉の専門性を持った集団が人を支えております。リーダーが育ち、また周りの職員が育っていき質の高いケアがある暮らしの場所が『希望の家』となっていきます。

ホーム
ページ



採用
情報



NPO リゅうおう

検索

イチオシ Photo!



手をギュ〜っと握り合い、
おでこもくっつけてニコリ。
伝わるぬくもり気持ちもほっこり。



グループホーム希望の家・綾戸

笑顔キラキラ

敬老の日のお祝いに、お一人おひとり心を込めて記念写真を作りました。今年の夏まつりは4年ぶりにご家族も参加。その時のご家族とのお写真は特に笑顔が輝いていますね。良い写真が多くて選ぶのに苦労しました



デイハウス須恵の郷

すばらしい!!

須恵の竹内陶芸教室に行きました。利用者様に陶芸の話をする、「お湯呑にするわ」「お皿もいいな」と、とても楽しみにされていました。親切に指導して下さい、作品の出来上がりにとっても喜ばれ満足されていました



グループホームわかすぎの丘・七里

飯まだかあ

夕方4時半頃の台所での様子です。「今日の晩ご飯は何や？」っと今にも聞こえてきそうなお写真です。このような家庭的な雰囲気が感じられるのもグループホームならではのすね

